


区制施行70周年記念

特集展示

すみだの街角1

清親と安治 — 明治を描いた師弟 —

平成29年9月16日(土) ▶ 11月26日(日)

- 
- ◆ 休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）・第4火曜日
 - ◆ 時 間：午前9時～午後5時 ◆ 入館は4時半まで
 - ◆ 入館料：個人100円・団体（20名以上）80円
 - ※ 中学生以下と身体障害者手帳・愛の手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方は無料

すみだ郷土文化資料館

墨田区向島2-3-5 TEL03(5619)7034

清親と安治 — 明治を描いた師弟 —

小林清親は弘化4年(1847)、本所御蔵屋敷(現墨田区横網一丁目)総取締小林茂兵衛の四男として生まれました。鳥羽・伏見の戦いにも参加するなど、幕臣として働き、江戸幕府瓦解とともに失業、明治7年(1874)に東京に戻り絵師として歩み始めました。洋画や写真術を学んでいたと言われていたようですが、特定の師は持たず、ほぼ独学で絵を習得したとみられています。

清親は明治9年(1876)から「光線画」と呼ばれる西洋風の風景版画シリーズを発表しました。「光線画」は「光線の変化によって生ずる自然の美観を捉えた絵画」であり、その語感の新鮮さも幸いして当時の庶民に支持されました。光と影がもたらす情緒を淡い色調で描いた新しい感覚の「光線画」は、現在でも日本における独自の印象派的絵画であると評価されています。これら一連の「光線画」シリーズは、明治の東京の風景を描いた作品がほとんどで、文明開化を象徴する風景のみならず、失われつつある江戸の風情をのこす風景を写実的かつ情感豊かに描いていることが特徴です。永井荷風は清親の絵を「一時代の感情を表現し得た」作品であると評価しています。

清親の弟子、井上安治は、元治元年(1864)、浅草並木町(現台東区雷門一丁目)の呉服屋井上清七の長男として生まれました。明治11年(1878)、14歳で清親に弟子入りし、以降清親とともに東京東部地域を写生して歩き、東京真画名所図解シリーズなどを描きました。清親の後継者として期待されていましたが、生来病弱であったため26歳で夭折しました。

本展示では、清親の「光線画」時代に描かれた本所・向島の風景版画を中心に、晩年まで至る清親の画業に焦点を当てるほか、師の画風をよく受け継いだ井上安治の作品を紹介します。



小林清親画 梅若神社



井上安治画 本所枕橋ツメ



井上安治画 梅若神社ノ雨



井上安治画 向島桜



井上安治画 本所割下水

■案内図および交通機関



- 東武伊勢崎線
「とうきょうスカイツリー」駅より徒歩約7分
- 都営浅草線
「本所吾妻橋」駅より徒歩約8分
- 区内循環バス北西部ルート
「見番通り入口」停留所より徒歩約5分

